

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年4月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277102428		
法人名	株式会社 脳リハビリネットワーク		
事業所名	ねんりんはうす佐鳴湖		
所在地 (電話番号)	浜松市中区富塚町2884-4		(電話) 053-476-6300

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年12月4日		

## 【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人、非常勤 0 人、常勤換算 17 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 420,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,840 円		

### (4) 利用者の概要( 11月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4 名	要介護2	6 名			
要介護3	6 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80.8 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県西部浜松医療センター ・高橋内科医院 ・酒井歯科医院		
---------	-----------------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスの役割と意義を理解し、認知症専門医の指導のもとで脳リハビリを行う特徴をもったホームである。認知症高齢者の脳リハビリを行い、在宅復帰を目指し、開設3年でその実績も伸ばしている。市内中心部に位置するが、近隣には公園や商店等も多く、積極的な外出支援も行っているため、利用者の生活の幅が広がるとともに、地域や近隣住民との交流も深まっている。日常生活の中で、生き生きと人らしく生活できるように職員が一丸となって支援しながら、現状の心身機能の維持と向上に取り組み、家庭らしい雰囲気の中でホーム理念である「心・和・輪」の実現を目指している。職員一人ひとりの意識も高く、今後の取り組みにも期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果での大きな改善課題は無かったが、職員全員で結果を確認し、より良くする取り組みに努めてきている。現行の取り組みを更に良くするような意識をもって、定期的な確認と検討を行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を十分理解し、全ての職員が自己評価を行った。そのまとめ方について、職員全員で時間をかけて行えなかったとの課題をホームとしても感じているが、これまでの取り組みを振り返る大切な機会として取り組んだ。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的開催する運営推進会議では、家族や地域関係者、市職員等が出席し、活発な意見交換が行われている。出された意見や提言等は記録し、職員間で共有を図る他、必要な事柄はサービスや運営に反映させるようにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が気軽に意見等を言える雰囲気づくりに努めている。家族の訪問や連絡をとる際には、サービスや運営に対する意見等を聞くようにし、寄せられた意見等はホーム内で検討し、運営やサービス提供に反映させるようにしている。家族会も組織され、年2回のイベントでは家族同士が交流し、情報交換できるようにしている。
		日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。自治会役員も運営推進会議に参加しており、地域情報を得て、利用者の生活の幅を広めている。また、日常生活において散歩や買い物、外食等の機会に地域住民との交流も深め、近隣住民との顔なじみの関係が広がっている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症を重度化させないために、認知症専門医の指導のもとで脳リハビリを取り入れながら、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように、地域との連携も深めた「心・和・輪」のホーム理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「心・和・輪」の理念を職員は共有し、心のこもった和やかな家族のような繋がりの中でこの理念が実践されるように取り組んでいる。職員は、常に利用者寄り添いながら、この理念の実現に向けて研鑽を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設以降、地域との交流を大切に考え、深めるよう取り組んできた。日常生活での散歩時や買い物時等での関わりの他にも、行事への積極的な参加で、地域や地域住民との交流が自然に深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全ての職員で自己評価を実施し、運営会議や職員会議でその共有を図り、必要な改善に努めている。自己評価内容は職員間で共有し、サービスの改善と更なる取り組みに向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごと開催している。地域住民からは、自治会長や民生委員、市行政職員、家族等の参加を得て、活発な意見交換が行われている。協議内容は記録し、職員間で共有を図るとともに、運営やサービス向上に活かすようにしている。	○	運営推進会議を有効に活用している。運営基準にあるとおり、2ヶ月に一度開催することを検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するセミナーに参加したり、市介護相談員の定期的な受入れも行っている。市行政職員とは、必要に応じて連絡を取り合うが、利用者のサービス向上に向けた定期的な話し合いが行われるにまでは至っていない。	○	保険者である市(職員)に働きかけを行い、地域密着型サービス事業の充実を図るために、定期的な話し合い等の場が設けられるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には利用者の生活等の様子を伝える他、年4～5回のホーム便りを作成して送付している。また、定期的なかかりつけ医への受診の際には、必ず受診結果を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の参加を得る他、家族会を設けて定期的な話し合いの場を設けるようにしている。また、訪問時には気軽に意見や要望が言えるような雰囲気づくりに努め、寄せられた意見等は検討し、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職による利用者へのダメージを良く理解し、できる限りそれが起こらないように留意している。移動等の際には、予め利用者や家族に伝える他、影響が無いように留意している。これまで、離職も殆どなく、移動も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人が運営するもう一つのホーム職員と合同で委員会を作り、全ての職員がそれに参加し、毎月、事例やケース検討を行っている。また、関係する外部研修にも積極的に受講し、知り得た内容は全ての職員で共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が中心となり、GHのネットワークづくりが行われ、相互の連絡や情報交換ができる状況となってきた。他ホーム職員の見学等を受け入れている。	○	情報交換や交流が図れるようになってきている。定期的な職員の交流や相互学習会の開催等が行われるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には家族との関わりも大きいので、家族を含めた面談を重ね、顔なじみの関係になることに配慮している。利用後はできる限り個別に関わり、利用者の気持ちを把握し、その人に合った支援を行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者本位の生活を支援しながらも、共に生活する家族のように対等な考え方をもって接し、支え合う関係づくりを目指している。ホーム内の役割等も、職員が利用者に教えられながら行われている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の生活歴の把握を行い、利用後の生活の様子や仕草、言動から一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。把握した内容は記録に留め、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の事情や希望に沿った具体的な介護計画を策定している。職員会議では、職員が感じていることや記録に留めた事柄を出し合い、一人ひとりの具体的な介護計画としている。また、その確認を利用者及び家族に確実にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは、3ヶ月ないし6ヶ月ごととしているが、職員会議を定期的に行う中で一人ひとりの確認を行っている。必要に応じて随時見直しも行う他、利用者や家族の希望や意向もその都度確認し、見直しを行った際には利用者及び家族に説明を行い、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の特性を踏まえて、時々要望に柔軟に応えるようにしている。利用者や家族の希望による特別な外出や通院への介助等を行う等、一人ひとりのニーズに応じて柔軟に支援するようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望に沿ったかかりつけ医への受診支援を行っている。利用者の殆どは、近隣にあるホーム協力医がかかりつけ医となっているが、定期的な受診には職員が同行し、受診結果を把握するとともに、家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する利用者や家族の希望や意向を踏まえて対応するために、ホームとしての対応方針を定めている。柔軟に対応するために明文化し、利用契約時に説明し、同意を得る他、定期的な確認を行い、ホームでも看取りが行えるように配慮している。	○	ターミナルケアについて検討や準備を進めている。利用者や家族によりその意向は異なると思われるが、今後もこれまでの取り組みを継続されるように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳と人格を損ねることが無いようにプライバシーに配慮した対応を行っている。記録をイニシャル表示にしたり、写真入便りは家族のみに送付する等、個人情報の取扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを最大限尊重し、充実した生活が送れるように配慮している。その日に何がしたいのか、どのようなことを希望しているのかを把握し、その人らしい生活が継続できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で作っているが、ホーム内で味噌汁等を作り、職員とともに会話を楽しみながら食事している。配膳や片付け等も職員が利用者と一緒に行うようにし、食事時間を楽しく過ごせるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間を使って、利用者の希望によりゆったり入れるように留意している。入浴を嫌う利用者にも上手に誘導するようにしている。夜間の入浴は、職員配置の関係上行えていない。	○	利用者本位の生活支援を行うことを考えているので、真に利用者の希望する入浴時間や方法等について、定期的に検討を行って欲しい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用前の生活歴の把握に努めながら、一人ひとりの様子を窺い、充実した、喜びのある日々が送れるようにさりげない支援に努めている。ホーム内の役割も自然に無理なく利用者も担う他、外出時の気軽な外食等にも臨機応変に対応するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内だけで過ごすことが無いように、積極的に外出できるように支援している。天気の良い日には、近くの公園に出かけたり、散歩先での買い物や喫茶店に立ち寄る等、利用者の急な要望にも応じられるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、門扉ともに日中は鍵をかけていない。利用者の状況により入口に鈴をつけたり、門扉の鍵を掛ける場合もあるが、利用者の自由な行動を妨げることが無いように留意している。	○	鍵を掛けることの利用者へのダメージは理解しているので、いかに鍵を掛けず、見守りによる支援に取り組めるかを定期的に検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は、消防署の協力を得て防災、避難訓練を実施している。利用者が安全に避難できるように職員、利用者ともにその方法を体得できるように確認を行っている。	○	あらゆる事態を想定し、地域住民の協力も仰ぎながらの訓練実施にも期待したい。自治会との協力関係も良好で、地域の避難場所としても提供するように考えているので、その具現化を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士によりカロリー計算された献立が用意されている。また、ホーム内で作られる味噌汁は具沢山で、十分な栄養が摂取できるように留意している。また、水分補給や一人ひとりに応じた食事提供方法についても、工夫し、確認が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの利用者は、季節の花が活けられ、家庭的な共有空間で日中を過ごしている。楽しみごとや体操をしたりして、楽しく落ち着いて過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の過ごし易い居室空間づくりに心掛け、使い慣れた家具や調度品を持ち込み、畳の敷いてある居室もあるなど、個性ある居室となるように支援している。居室入口には、表札が掲げられ、利用者が製作した飾り等も季節ごと飾られる等、家庭的な雰囲気づくりにも配慮している。		